

一〇二三年五月一九日

麦秋や河童伝説のこる郷  
新茶汲む夫唱婦隨に半世紀  
一〇二三年五月一八日

あひる  
満天

樹下涼し三鉢の松にハート絵馬

なつき

いつぞやの金魚のおもちゃ溝浚え  
町薄暑近道塞ぐブルドーザー  
豆画伯らが画架立つる若葉道

豊実  
せいじ  
むべ

一〇二三年五月一七日

草藤の波うちやまぬなぞへかな

明日香

人影のなき炎天の漁師町

みきお

海風が頬を撫でてゆく野良涼し

千鶴

いつも買ふ豆腐売り切れ夕薄暑  
雨後の朝袖を濡らして苺摘む

豊実  
満天

一〇二三年五月一六日

一〇二三年五月一五日

母の日や子供の数の花届く  
子燕の押しくらしつつ糞落とす  
雨蛙囲み道草小学生

もとこ  
満天  
きよえ

一〇二三年五月一四日

母の日やかの日の悔ひの今もなほ  
母の日や息子ふらりときて帰る  
宏虎

やよい  
宏虎  
明日香

出来不出来一喜一憂夏野菜

明日香

毎日句会みのる選・一〇二三年五月二二日

ローカル線涼し窓過ぐ景もまた  
杉桶に味噌の香染みる蔵涼し  
竹林の小径縫ひゆく風涼し

なつき  
せいじ  
秀